

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の「認知症高齢者の住まい」である事業所として、共存共栄を旨に、また地域社会において認知症高齢者にご理解いただけるよう理念を持ち事業運営を行っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「介護理念」は玄関に掲示し、毎朝の朝礼にて唱和し、共有・実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族や地域の方々には当事業所の介護理念のもと、対応・声かけを行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々とは、スタッフの出退勤時・入居者との散歩時を問わず気軽に立ち寄っていただけるよう声かけを行っている。向かいの方からは、当事業所から聞こえる入居者との歌声につられ、鼻歌を歌っているとお声をいただいたり、12月に飾るクリスマスのイルミネーションを毎年子供と楽しみにしているとお声をいただいている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会総会・地域の夏祭りには毎年参加し、地域の一員として地域の方々との交流を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティングにて地域への貢献について話し合い、自治会総会に於いて、ご案内している。認知症高齢者を自宅にて介護している家族より「接し方・家族としての考え方」について電話にてご相談を受けた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容については全職員とミーティングにて話し合い、またご家族様には郵送にてお送りしご意見を伺い、当事業所の考え方に照らしながら対応している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、当事業所の現況報告ののち各参加者から、ご意見・ご質問を受けている。ご家族・地域の自治会長より行政・消防(年に一度)に対しての質問も多く、グループホームの運営推進会議が枠を超えての情報共有の場となりえている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護申請のため市役所へ出向いた際には必ず担当者と情報を共有している。その他、市役所内で行う加盟団体の勉強会・交流会、市役所主催の勉強会・交流会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。市役所主催の交流会に於いては、事例発表・司会等させていただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	それぞれの勉強会・研修会には積極的に参加し、朝礼時・ミーティングにて発表し、全職員の知識の共有に努めている。また、必要な方には提言・助言を行い、現在ご利用者で成年後見制度を利用されている方もおられる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修会に積極的に参加し、朝礼・ミーティング時に発表し、知識の共有を行い、精神的虐待も含め完全防止に努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を持ち合わせ十分な説明を行い、理解・納得をいただいている。また疑問をお持ちになった際には、随時お答えし、納得いただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見や不満は随時お聞きしている。また、ご家族様からもご本人の意見を伺い、指摘された事項については職員全員で考え対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについては3ヶ月に1度のホーム便りにて、健康状態については随時、金銭管理については毎月々の利用料請求時に現金出納簿にて、職員の異動についてはホーム便りにて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ご利用者に担当職員を1人決めており、ご家族の面会時には、日頃の様子をお話し、ご家族が意見を申し出やすい環境づくり努めている。玄関には「ご意見箱」を設置、国保連合会のポスターを掲示し、家族会にて意見・不満・苦情の窓口としての市役所・国保連合会の電話番号・FAX番号の案内を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・ミーティング時に職員からの意見・提言を伺っており、1つの提言には職員全員で話し合い反映に活かしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	当事業所は、ご利用者・ご家族の希望でターミナル・お看取りまで行っているが、その中で、柔軟に勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームでは職員とご利用者の馴染みの関係は大前提である。異動はユニット毎で行い、出勤・退勤時には必ず他のユニットに挨拶に出向くようにしている。離職については、ご利用者のダメージを最小限にするよう努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては性別や年齢によって決定することはないが、やる気がある方なのか、どのような意思のもとで介護に携わろうとしているのか、応募者の健康状況によっては区別している。現職員については、個人の能力に応じ決定権を持ってもらい、当事業所を担う一員として責任ある行動を行えるよう配慮している。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会・研修会に積極的に参加し、朝礼・ミーティング時に発表し意思の統一を図っている。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内に勉強会・研修会の案内・ポスターを貼りだし、朝礼・ミーティング時に案内し参加を勧め、事業所として交通費の支給・講習料の半額支給を行っており、職員各自の意識改革・技術の向上に努めている。		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、久留米市介護福祉サービス事業者協議会に加盟しておりグループホーム部会にて行われる勉強会へのスタッフの参加を勧めている。また1年に1度、協議会主催の交流ボーリング大会も行われ、介護・福祉に携わる同業者と交流を持つ機会をもっている。		
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が運営者に対し、意見・不満を申し出やすい環境づくりに努めている。また、忘年会・懇親会を設け職員のストレスの軽減に努めている。		
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、全職員に自己評価を提出してもらい、グループホームで働く意義・個々の問題点と自己目標を明確にしてもらい、業務を行ってもらっている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に昼食を数回とっていただく中でご本人の不安や抱えておられる問題、悩みなどをお聞きしている。又、ご本人からの言葉を大切に受け止めるように努めている。ご入居までに他入居者とのふれあいも大切にし苑の雰囲気なども感じていただけるように努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話で相談を受けたり直接会って相談を受け困っておられることや不安なこと求めておられることなどをよく聞くようにしている。その場で感じることや質問なども率直に発言できるような環境づくりに努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際、ホーム長・ケアマネ・看護師も同席し相談やご本人の状況を聞いた上で必要とされている支援や介護の方法を見極め助言・提言を行っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族から話を聞き、見学していただき日中の雰囲気体験していただくために昼食をご利用の方々とっていただく。その後2泊3日の無料体験入居をして頂き、ご理解、ご納得いただいたうえでのご入居をしていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共感し信頼関係を築いている。職員はご利用者から学ぶべきところも多く心に留めながら日々の生活を送っている。		
30	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、ご本人の現状をお話したりご家族からの要望を聞いたりしている。ご家族にも誕生会・花見・敬老会に参加していただきひとときを楽しく過ごしていただくようにし、写真撮ってアルバムを作ったりして職員との信頼関係を築いている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の方にご本人の生活暦を書いていただき職員はそれを読んでご家族との関係を知り、ご本人・ご家族・職員との関係がうまく行えるように努めている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来ていただけるようにしている。又、年賀状などご家族やお知り合いの方に出して近況をお知らせしたりしている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション(体操・歌)を行い、みんな楽しく生活していただけるように努めている。利用者同士で助け合い、出来る人は出来ない人に手伝っていただけるように声かけしながら良い関係を築けるように努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご本人の希望で退所された方とは現在も交流があり、遊びに来ていただいたりしている。又、亡くなられた入居者の葬儀や法要には参列しその後、ご家族が遊びに来たりくださった。葉書や電話等でご連絡し関係を大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が昔から使われている家具など居室へ持ってきていただいたり、写真、仏壇などを飾ったり、又希望され電話を設置したりしている。以前の暮らしを考え畳を好まれる方には、畳を敷き安心して暮らしていただけるように努めている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報(前の施設・かかりつけ医)と、ご家族より『これまでの生活暦』を記入していただき内容を共有しご本人の把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者ごとに担当のスタッフを決め日常の介護状況の把握に努めている。共有ファイルに綴じて全入居者のケアに努めている。毎月1回全スタッフ参加のミーティングにて担当者が発表し全入居者の状況を全スタッフが総合的に把握するように努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者本人からの意見を聞き取るのは、困難な場合が多いが、朝礼やミーティングで全職員の意見やアイデアを聞く機会を持ち、面会時にご家族とお話し、介護計画の作成・見直しを行っている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月に1度、介護計画の見直しを行っており、入院や身体やADLに変化があれば、見直しや新たな計画を作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践は、毎日個別に詳細に記録を行っており、申し送りノートも使用し全職員が情報を共有し、日々の介護や計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人の病状や体調に合わせ、ご家族やかかりつけ医との話し合いを重ね、入院や手術など行っている。退院後も入院前と同じように生活ができるように、入院中から面会時などに情報を収集し、受け入れ態勢を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との共同を考え運営推進会議に参加していただく事をはじめ地域の高齢者の動向などを伺っている。火災避難訓練での消防からの協力もいただき地域に根づくグループホームを目指している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて散髪や歯科往診を利用しておりかかりつけ医の指示にて必要なときは訪問看護も利用している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には毎回出席していただき交流、情報交換を行っている。又、ご利用者の権利擁護については相談もしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診・往診によりご利用者の状況把握が早期に対応されている。定期的に診療情報提供も受けている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しいかかりつけ医がしっかりご利用者の状態を把握されており、認知症に関する診断や治療を受けられる体制にある。又、職員も気軽に相談できる状況にある。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員である看護師やかかりつけ医の看護師とスタッフが気軽に相談できる環境にあり、日常の健康管理支援を行っている。又、利用者の必要時にはかかりつけ医より訪問看護を利用し医療資源を活用しながら支援を行っている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院された際にはスタッフが病院へ出向き情報を把握したりご家族と共に病院からの説明を聞き情報を得て他のスタッフに伝えている。又、早期に退院された場合、事業所内でのスタッフによるリハビリを行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化になられた際の指針を定め当事業所の捉え方をご家族に説明している。その際終末期に向け何いはするがご家族間でも意見の相違があり、決定はせずに状態の変化によって話し合いを繰り返し最終的な決断をしていただいている。その決断によって職員間で方針を統一し対応している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所では『お看取りまで支援していただく』との方針でミーティングにて協議している。終末期に入られた際にはかかりつけ医の依頼により訪問看護ステーションより点滴に来ていただいている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅や他施設から当事業所へ入居又は当事業所から自宅、他施設への退去の際はご家族からの生活暦・ケアマネより情報を収集し情報交換を行い、本人住み替えによるダメージを最小限に抑えるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人一人に合った声かけを実施している。記録等の個人情報もきちんと保管しプライバシーを損ねるような取り扱いはしていない。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者、個人個人に合わせた声かけで話をし、選択肢を用意し自己決定してもらえよう支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本を読まれる方や、歌を口ずさまれる方、昼寝をされる方やスタッフと苑内の野菜を収穫に行かれる方、様々にお過ごしいただいている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	誕生会・敬老会・花見などイベントの時にはご本人の意向を伺い、職員と共に決めている。ご利用者の中には、病院への受診の際にも化粧をし、おしゃれをされている方もおられる。理容・美容は店には行っていないが事業所へ来ていただき、ご本人の好みを聞きながらセットしていただいている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者より好きなメニューを聞いたり、季節の野菜を豊富に取り入れながら、献立をたてている。ご利用者の提案により「お弁当の日」を設け職員手作りの弁当を食べていただいている。後片付けが始まると、それぞれ出来る範囲で食器の後片付けをされている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やタバコを飲まれる方はおられない。時折、ご家族よりご本人が好まれるお菓子や飲み物を差し入れされており、差し入れされた物については賞味期限の確認を行っている。また、季節によっては、水分補給時に出すおやつを散歩の延長でスーパーに立ち寄り好みのお菓子を選んでいただいている。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「どうしたら排泄の失敗・おむつの使用を減らすことが出来るか」をミーティングで協議し、ご利用者によっては、時間を設定しトイレへの声かけ・誘導を行っている。トイレへ行く回数が増え、頻回で気にされている方へは、安心して排泄していただけるよう声かけを行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の体調や都合に合わせて、およそ2日おきに入浴していただいている。入浴中も職員と話をしながらゆっくり入浴できるよう支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者各個人の生活習慣に合わせ、昼間でも居室にて1時間ほど休まれたり、夜間においても水分補給やおしゃべりをしながら無理に休んでもらわず眠くなったら休んでいただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員がご利用者の生活歴を把握し、じゃが芋の皮むき・もやしの手入れ等、ご本人の力を活かした支援を行っている。また、雨が降っていないければ、毎日散歩に出かけ気晴らしの支援を行っている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方のお金は事務所に保管しているが、実際にお金をお持ちの方もおられ、買い物に外出された際には自由に使ってこられる。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせて散歩に出かけたり、ご利用者の希望に合わせてスーパーや洋品店に職員と共に買い物に出かけられるよう支援している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに事業所行事として、ご利用者やご家族をお誘いし、花見・コスモス見学・大型スーパーへの買い物・地域の夏祭り等外出の機会をつくっている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの希望もあり居室に電話線を引かれ、ご家族に電話をされている方、またご兄弟・ご親類と手紙をやり取りされている方もおられ、その他の方々にも年賀状や暑中見舞い、ご希望の方には事業所の電話を使いご家族とのやり取りを支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	新型インフルエンザが市内住民より確認がなされたため、現在は面会をお控えいただくよう、お声かけを行っているが、基本的にはいつでも気軽に訪問できるよう声かけを行っている。また、訪問の際には近況をご報告すると共に、お茶やお菓子を出して共に楽しくお過ごしいただけるよう、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者には常に自由に動いていただき、徘徊等あるときには細やかな見守りを行っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害は、常に熟知しスタッフミーティングに於いても話し合っているが、ユニットが2階であるため階段での転倒を防止するためユニット入り口には施錠している。また、施錠に関しては家族会にて了承されている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は他の業務を行っていても見守りを行い、夜間は2時間おきに見回りをを行い安全に配慮している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ハサミは普段ご利用者の目の届かないところに保管しているが、じゃが芋の皮むきなど職員と共に作業を行っていた場合もある。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひと月に1回のミーティング時に「勉強会」を行い、資料・考えを出し合って事故防止に取り組んでいる。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ユニット毎に「緊急時のマニュアル事典」を用意し知識の向上には努めているが、止血法・心肺蘇生法等、職員全員は行えていない。	○	当事業所が加盟する久留米市介護福祉サービス事業者協議会グループホーム部会において、消防署協力の下、普通救命講習を順次受けていく予定である。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立会いのもとでの避難誘導訓練（総合訓練）、ミーティング時に災害対策に対する講話訓練（机上訓練）を行うと共に、町内行事に積極的に参加し、災害時には協力を得られるよう働きかけている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご入居時に転倒や誤嚥などについて説明し、入居後もご家族に現在の状態を説明しご理解いただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が一人ひとりのご利用者の体調面を意識し、朝・夕のバイタルチェックを行い、異変の早期発見に努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬は一人一人違うため、職員は薬の種類やその効能を理解しようと日々努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	レクリエーションや散歩で身体を動かしたり、白湯を飲んでいただき、胃腸を整えられるよう努めている。また、便秘症の方には起床後すぐにコップ1杯の水を飲んでいただいている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア時はスタッフが見守りにて洗い残しがないように働きかけている。また、残存物がないように口腔内のチェックを行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養失調や脱水症状にならぬよう職員一人ひとりが心がけ、その日の食事量・水分摂取量を細かく記録している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、月1回のミーティング時に「勉強会」を行い、その中で正しい知識を見に付けるよう努めている。各ユニット入り口には消毒液を設け、職員の出退勤時・ご利用者との外出からの帰苑時、訪問者の来苑時、食事前には必ず指手消毒を呼びかけている。現在、久留米市在住の方の新型インフルエンザが確認されているため、ご家族にはご面会を控えていただく旨の文書を送付している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は使用后、熱湯や消毒液にて清潔を保ち、衛生管理に努めている。食材については買いだめすることなく、その日の調理担当者が賞味期限を確認し遣い残しがないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関等の清掃は日頃から「清潔さ」を心がけている。周囲には木や草花を植え、心がなごむ雰囲気づくりをしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、階段には一人ひとり御家族との写真を飾っている。リビングには日頃の様子・行事ごとの写真を飾り、ひな祭り・七夕など季節の飾りつけも行い、心地よく過ごせるよう配慮している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてテレビを観られたり、仲の良いご利用者同士、お話されたりしている。また時には職員が奏でる三線に合わせて歌われている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の要望に応じて、畳やフローリングにしている。ベット使用もご本人・家族の希望にし、仏壇や家具など持ち込んでいただいている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には換気・冷暖房設備を整えており、温度調節は常に職員が管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレ、浴室には手すりを設置しており居室内は整理整頓を心がけ、家具の安全な配置に努めている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉にご利用者の写真を貼り、リビングのテーブルには名前を貼っている。トイレにも大きく掲示し混乱を防いでいる。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にはベンチを置き、散歩からの帰苑時等、外気浴を楽しんでいる。ベランダではプランターを置き、二十日大根・じゃが芋を育て、ご利用者が楽しめるよう努めている。		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
V. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

番号	項 目	取 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	①ほぼ毎日のように
		☐	②数日に1回程度
		☐	③たまに
		☐	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	①大いに増えている
		☐	②少しずつ増えている
		☐	③あまり増えていない
		☐	④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	☐	①ほぼ全ての職員が
		☐	②職員の2/3くらいが
		☐	③職員の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての家族等が
		☐	②家族等の2/3くらいが
		☐	③家族等の1/3くらいが
		☐	④ほとんどできていない